

# フレンチギアナ採集旅行2006年

採集地別に掲載します。

リブルス イグネウス KAW 採集日は2月23日13時。



このイグネウスは他のところのイグネウスのひれが薄い黄色であるに比べて赤みが強い、上の写真の若魚はまだ色が薄くしか出ていない。

場所はフレンチギアナの KAW 山地の北斜面であり緯度経度は木が茂って測定できずである、水質は総硬度は5 p p m、PH5、水温は25度であった。フレンチギアナは3月まで雨期であり水域は広がっていると推測されるし連日、夜の降雨で足下は濡れているし土のところはドロドロという難条件であるが採集は簡単だと感じたがオランダ人氏に寄れば乾期はもっと簡単だという。

タイだと雨期の方が魚が出てくるので採集が簡単だと言うしここでは乾期の方が魚の生息域が狭くなるので簡単だというがどちらが本当なのだ？日射は1ヶ月前に行ったタイほど暑くなく快適である。

一般にジャングルというと暑さと湿気で過酷だと思われがちであるがあるがあるが実は結構ひんやりとしていて快適だが湿度は高くて動き回ると汗はかくし気温は26-27度程度である。

むろん日差しのあるところは30度を越えるけれども夜は24度以下になり涼しくてエアコンはいらないが原住民の家は木材を適当に組み合わせて作った高床式で壁に隙間が多いものであり屋根はトタン葺きであるので台風などは来ないと思われる、赤道直下は実は台風は来ない10-20度の緯度で発生し30-40度の日本を襲うのが台風で環太平洋火山帯に位置する日本を襲うのが地震であり、こう書く

と日本に住むのがいやになるし楽天的な性格の人は比較的いないとわかる。

## イグネウスの現地状況



こうした暗いジャングルの中にある直径15mくらいの池で水深は1m程度だ、ロッジの子がガイドであり水中マスクやシュノーケルをつけて採集し私は木の根っこに足をおいても網で採集して20分ぐらいで19匹採集できた。

採集は岸からは足下が悪く、つまり木の根っこといえど日本の根っこは違い盤根と呼ばれる板の木口みたいな5cm位のところに足を置き両足を踏ん張って網をふるい採集したらその格好のまま獲物をビニール袋に入れるというわけで困難を極めるが泳げれば簡単でありあつという間の19匹であったがオランダ人は網の柄がなく私よりも採集が困難で収穫は0で勝ったと思った、帰り際に大きなムカデを撮影したりガイドの子が大きなアリに気をつけるというのを聞きながら車に戻る。

フランチギアナで採集といわずどこにいてもその下にアリが巣くうような地面であればアリを踏み怒ったアリに素足であればたちどころにアリの大きな牙でかみつかれて悶絶するので生地がツルツルでアリがすぐ落ちるロングブーツで足との隙間を締めて少なくできる物が必需品でありスポーツシューズやサンダルでは痛くて歩けないか、下を向いてアリに気を取られて今度は木にぶつかり転倒する。

泳げない人はここではロングブーツや胴長でいけるところまで行くようにすると良い。

実にハードな採集だがここにしかいないというイグネウスの変異種が採れてうれしい。

リブルス採集もここが2番目にハードでありspのところはもっとハードであったがあとは簡単などころもあるがサンダル履きで採れるとなると少ない。

採集されたイグネウタ



水面には枝や葉が多くつもって茶色に見えるが掬うと水は透明。

## リブルス アギライ トネグランデ



採集されたアギライ トネグランデ1キロ、まだ若魚で色が無い。

採集地は宿泊したロッジからトネグランデ方面に行き途中のT字路を直進しそこから1キロの地点。

水質は水温25度、総硬度10ppmでPH5のフレンチギニア産リブルスの標準的なデータである。

緯度は04度49分64.5秒

経度は52度30分02.6秒

ここが初めて私がリブルスと名の付くメダカを採集した地点で最初は雌だけしか採れてなかったがそれはリブルスがこうしたクリークの浅瀬や縁に棲んでおり真ん中はテトラやコペイナなどが多いので最初の獲物はコペイナであったし次はテトラであった。

最初は東側で採集して成果は少なく西側ではまだましであったが私は雄は採れなかったオランダ人氏はペアとアピストグラマ ゴッセイのペアを採集し差を付けられたがリブルス採集は初めてなので仕方がないと思うし相手は英領ギアナに5回も行っている強者だし日本では各種の淡水魚の採集では腕を上げては来ているのでそのうちには何とかなると思うけど。

採集日は2月17日で採集初日である。

初日からともあれ有名なリブルス アギライの産地で採集できてうれしい、この幸運さで行くとリブルスの5-6種類は堅いと思う、むろん採集データは事前に入手しておりどこに行けば採れるという情報はあがるが果たしてその正確さはどうなのかという疑問はあったが初日で杞憂であったことが判明した。

## トネグランド1キロの産地写真



水深が5 cmあまりの河のそばにある池で採集された、ほとんどのリブルスは浅いと  
ころしかいないがイグネウスは違う、日射は木漏れ日が差す程度。



本流は水深50cm位、幅3m位の透明な水で茶色に見えるのは底の色。

## アギライ トネグランド1キロの産地写真



こちらはアスファルト道路を挟んで同じ河の日向の場所でここにもアギライがいる。

下は盤根を持つ木でこうしたところの木は土壌が浅いために根をこうした形にして自分自身を支えている。



こうした木は実は日本にもあり有名な物は西表のサキシマスオウであり巨木に成長するが実は愛知県の渥美半島の太平洋側にもサキシマスオウははえていてこちらは1.5m位の樹高の小さな個体であるがフィリピンには巨大な個体があるらしい。

実は西表も愛知県の個体もフィリピンから黒潮に流れてきた実が漂着した物が発芽して育った物であり分布の北限近い愛知県では小さい物しかないというわけだ。

## リブルス アギライ ボウランガ10キロ



上は採集されたアギライを見るオランダ人、ここの採集地は宿泊地から南に24キロ、リブルス キフィデウスの産地として名高いクリーク ボウランガーから約10キロの道を横切る小さなクリークである。

道の下に降りてクリークの際まで行き網をふるっても最初はテトラやコペイナが多く最初は駄目かと思っていたがしかしある浅瀬というか岸でさらに浅くなっているところに行くと雄7匹雌4匹のアギライが採れて大成果だ。

2月18日測定した水質も総硬度10ppm、PH5、水温25度と変わらないデータ。西側のジャングルの下を流れるクリークの浅い縁に棲んでいる。

経度52度37分34.2秒 緯度4度37分34.2秒である。

このポイントを見たときのオランダ人氏のうれしさに崩れる顔は生涯忘れられない、まさにここなら採れる、やったーと言う感じだ、そしてそれは的中した、恐るべきは経験か。

道挟んで反対側の同じ河は日向になっており駄目だと感じたが念のために掬ってみてもやはりカラシンやコペイナばかりであったがコペイナやカラシンも持って帰り飼っているがやはり可愛いしコペイナはアーノルディーやグイテッタではなく自分にとっては新種なのでうれしい。

南米や南アジアで楽しいのは日本の熱帯魚屋で見る魚が捕れてそれが日本で見るよりも遙か美しいと感じるときでさらに持って帰ってみて結構丈夫で育つ物が多く熱帯魚屋で買うよりもいいと思うが薬漬けの繁殖魚よりは野生魚の方がいいのは当たり前か、でもコスト計算だともものすごく野生魚は高くつくのでしょうかない。

## アギライ ボウランガ 10キロの産地写真



上の写真の中心の赤白いものが採集したクリークのフェンス、下が採集したクリーク東側。







これが採集したところ、クリークの縁を網で陸側に向かって掬うと何匹かアギライが採れてくる、採集匹数は雄が7匹雌が3匹ぐらいであった。

水が濁っているがこれは採集のためにかき回した為で透明な水であり日照は半日陰といったところ、反してオランダ人が採ったところは完全日陰である。



# リブルス ルンギー カイエヌ



採集されたばかりのリブルス ルンギー カイエヌ、文字通りフレンチギアナの県庁所在地で中心都市のカイエヌに棲むリブルスでレンタカーの代金を払いに行ったときに採集したものである。

まあ何というかどこにでも綺麗な水があればのぞき込む私だがリブルスがこんな町なかでも生息しているとは知らなかった、完全な日向でありアギライやキフィデウスが圧倒的に日陰に棲むのに比べてルンギーは3カ所の地点、すなわちここカイエヌとマトゥーリとロッジのある地点で採集または目撃したがすべて日向であった。

水質は総硬度25 ppm、炭酸塩硬度20 ppm、PH7.0-7.5水温27.5度でありむろん気温も31度であって完全な日向であるし水質が今回の採取したどこの地点よりも悪い。

緯度経度は測定しなかったがリブルス ルンギーはどこにでもいるし又変異種が少ないので意味が少ないし緯度経度よりも住所を書いた方が正確であるし。

結構黄色のひれの縁取りや青い地に褐色の点が並び綺麗。

今日は雨で採集が出来ないのにここでもリブルスが思いがけなく採集できて気分もルンでそのうちに雨も上がったし絶好調である、2月21日採集5日目でアギライ、キフィデウス、イグネウスに続くすでに4種類目のリブルスである。

## リブルヌ ルンギーの産地写真



こちら側で若魚を採集し下の写真は向こう側の水路であり水深がやや深く成魚がいる。



緑色の枠で灰色の左側の建物がレンタカー屋さん。

# トメラウス グラシリス リオ コミティ



上がトメラウス グラシリスという透明で色のないメダカであるが生態的にはユニークでこのメダカはゴノポジウムがグッピーのようにあるが子供は産まずに卵を産むという変わった卵生メダカである。

あのカンペロレビアスと同じ生態を持つこのメダカは鑑賞価値がほとんどなく透明な体が虹色に見えるぐらいでありあまりにも知られていないがかのオランダ人氏はこのメダカが一番欲しいというのである、リブルスマニアのくせに？見つけたのはクリークボウレンガーからロッジの方向に12キロばかり戻った地点にある大河リオ コミティーで横切る道から河にくるまで降りていきボートなどを河におろす砂浜に生息しているので採集は非常に楽だ、サンダルでも足下はなんとかいいし河の中に踏み込んで網をふるうのにはその方が後が楽だ。

最初はリオコミティーのマングローブの森の中で採集したがハゼしかおらず止めて帰ってきて網を河で洗おうとして水面を見つめたら水面をオリアスみたいな透明な魚が行くではないかあわてて車に水槽を取りに帰り河に戻る。

最初は柄の長い網があったのでそれで掬うと2匹目で柄が折れた、東南アジアで5回の酷使に耐えた柄は伸縮できる優れ物で炭素繊維で軽いが合わせ目に砂が入り傷が一杯できたので長いことはないと思っていたがここに寿命がきたのであった。

それからは柄が1mの短い網で掬うために河の中に入って採集するが簡単に9匹掬うことが出来たので採集をとりあえず止めろと言うので止めた。



これが折れた網の柄であり柄の1番トップで真ん中から折れているので傷によるものである。

青い網が短い網であるがスペアの網を持たない悲惨なことになる。

3本とも最後には柄が折れたということ。

日本に帰ってあわてて丈夫な物を買ったとき。

## 生息地のリオコミティ



この通り大河で水質は総硬度10ppmでPH7.0で水温は26度であった、緯度は4度39分7.24秒、経度は52度21分26.7秒で測定日は採集日2006年2月18日13時45分。

雨が降って少し濁っている、

採取魚はあっけなく宿に着く前に半分死に残りもその日のうちに2匹、2日後に全滅であったがこの魚は皮膚が非常にデリケートなので網の目ですれてしまい死ぬのだと解ったので次はすれないように採集する作戦を立てた。

2月26日

今日はカカオというところに行き蝶の博物館を見るらしいので採集はないかな？というわけでロッジの女将さんと一緒に車で2時間あまりでカカオに着く。



うへは蝶の博物館のモルフォ蝶の標本で各種の活動時間が左上から9時に始まり右下の5時で終わるのを示している。

ここカカオは珍しくラオス人の町で博物館の前のマーケットはアジア系の人たちで一杯だ、下の写真参照。



帰りにリオ コミティによってやはりトメラウス グラシリスを採集したが今度は最初は発泡スチロールの箱を群の近くで沈めて採集する方法でテトラを2匹、トメラウスを4匹で途中で巻き網で群を追い込み12匹採集する。

今度はロッジにまで無事に生きて到着し翌日も全部生きていたがさすがに心配でフィッシュボックスに入れずに背中のディパックに入れてカイエンヌの空港に行ったら空港の荷物チェックで捕まり輸出許可を見せてさらに財布のなかまで見せて無事釈放されたが帰りにフランスのドゴール空港でチェックしたら2匹は死んでいる、さらにオランダに到着したら4匹は元気だがあと1匹は元気なくて11匹は死亡しているので日本にもって帰るのはあきらめオランダに残してきたがすでに体内に卵を持っていたから今頃は殖えているかも？

# おまけ 宿泊ロッジの紹介

エメラルド ジングル ビレッジ 10泊



これが10泊もしたロッジで冷水しかでないシャワーだし半径1kmいないはろくな家はない。

写真は食堂でここで夕飯を食べたら他は喋るしか楽しみはない。

緑のところは庭でいろいろな生物がいるし裏の森も部屋の中も？生物一杯だが部屋にガラスの窓はない。

ここからすぐにリブルスの産地のトネグランデは近い。

下のドイツ人は高名な採集者でドイツの趣味会の雑誌にも投稿記事があるぐらいです。で何日も前から5人ぐらいのグループで滞在しているいろいろな熱帯魚を採集していた。

屋根はトタン板で部屋の前はタイルで素足で歩けるがそうするのは良くない、すなわち水虫や疥癬にかかるおそれがあるし窓も夜暑いと開けると恐ろしいマラリアの媒介者のハマダラカが侵入してくる。

黄熱病の予防者注射の証明書であるイエローカードも当然必要だし滞在ビザは必要ないがここフレンチギアナに日本人はほとんど来たことがないので説明に苦労する。

フランス人はよくバカンスに来るようですし簡単に空港外にでれるのがうらやましい。

治安は良くなく夜は5匹の大きい犬が放してあり外にはでれないので南米で治安の良いところはないのかと聞いたところ、チリ、パラグアイ、ペルーぐらいだといっていた。

大変なところに来てしまったというのが偽らざる実感で私はアウトドアライフが好きでキャンプも好きでなかったらホテルを替えていたところだ。





寝床というかベットで40年ぶりに蚊帳を吊って寝た。

ちゃんと毎日電気香取線香を炊いたし乾電池式蚊取り線香も同時に炊いたおかげかマラリアにはやられなかった。

テレビもラジオも電話もない。

雨期なので夜は激しい雨がうるさいが割と涼しい



ロッジの専用採集道具、採集道具は貸してもらえないが白い瓶のオレンジ色の蓋の蓄養容器とエアープンプは貸してもらえる。

こういうところは設備は整っていてホテルでは考えられないところだ。

日陰で夜は水温24-25度で昼は27度に上昇するがメダカには別状なかった。



希望すればエンジンボートで河を遡上して採集につれていってもらえる。

写真はその用途のためのボート。

名前がリオ エスメラルダ。

次回はこういうエンジン付きのボートに乗って採集がしてみたい。

もっと奥地へ新種を求めて行くのだ。





採集には車も必要だが写真はそのためランドクルーザーで当然トヨタで隣国スリナムでこの主人が働いていた名残でスリナムのナショナルパークの文字がある。

もう一つの車はハイエースでこちらがメインのお客の送迎や採集現場につれていく。



むろん、生物や魚類の本も非常にそろっているし客もそろって生物の名前や生態に詳しい。

というかそうした客以外は来るはずもない。

たいていは熱帯魚ハンターか自分で取った魚を飼いたいという人とたち。



採集された蘭、条約違反では？

多くの木には蘭が着生しておりやはり取ってみたいくなるのは仕方ないかな？こうした原種は非常に高価でなかには100万円というものもありメダカ取るよりコスト的に合うだろうね。

メダカも繁殖魚は安いですが原種は色や形の良い物は高価であるべきだろう。

## ロッジの庭で見られる生物。



名前不明の綺麗な蝶、一杯飛んでいる。

うらのジャングルにはもっといろいろな綺麗な蝶が一杯居るので昆虫マニアには涎物。



裏庭で飼われているホシガメ。

玄関にもカメが居るしは虫類マニアもご満悦、でも熱帯魚は飼われていないのだな。

外には一杯魚が居るといふのにやはり世話が大変なのか水槽はあっても空であった。



ブロムメリアというパイナップルの仲間に巣を作っているタランチュラ、学名 *Avicularia metallica*.

これは昆虫でないせいか西洋人も愛好家が多い、ギリシア神話のアラクネーのせいか？



同じくブロメリアに巣を作り葉元の水たまりにオタマジャクシが泳いでいる *Dendrobatis ventrimaculatus* のことヤドクガエルの樹上型で小さく大きな地上型もある。

夕方になるとブロメリアから出てきて昆虫などを食べに歩き回る。



ヤドクガエルの水たまりには当然トンボの幼虫やごがいるがあるすばらしく晴れた朝に水たまりから葉表に上がってきて羽化する。

この写真は幼虫の殻から出きったところで羽が広がっていない、あと1時間ぐらいで羽が広がってくる。



こんなトカゲもいますし蛇も居ます。

しかし西洋人ってのは虫類が好きなのだが昆虫は嫌い、なぜ？

私自身はは虫類よりも昆虫の方が透きだし可愛いと思う、なかでもトンボが好き。

そういえばギリシア神話に昆虫出てこない物ね、精神構造に昆虫は可愛いということが入ってな

いということか？。



こんな犬が常時部屋の前でパトロールしたり寝たりしてますので犬好きでないと駄目、昼間はおとなしく首をかいてくれと寄ってくるのだが夜はウーとうなって怖い。

非常に臆病な犬が一匹いて飛行機が飛んでくるといすに隠れてキャンキャン泣いている。



壁にはおなじみのヤモリがいる。

綺麗ではないがトッケイみたいに鳴くことがないので安眠を妨げられずに良い。

蚊を追って壁を走って居るのを見るのは面白いけど。

#### 次回のお知らせ

リブルス spカウ、有名な産地のフォーガシーやクリーク ボウランガーなども紹介。そしてバグネの森での採集行で見つけた物は何か？ どうぞ期待。

フレンチギアナの生物も紹介。

多分、後2回ぐらいの連続物で如何に困難と苦痛をくぐり抜けてきたかを紹介。

普段は運動不足を痛感していたが結構やれるわ、良く休み睡眠を良くとればいいしだんだん鍛えられていくものだよ、体力はと思ったのは良かったけどね。

後食事や服装や空港内のトラブルなど。